

① 2 段目斜面の葺石^{ふきいし}

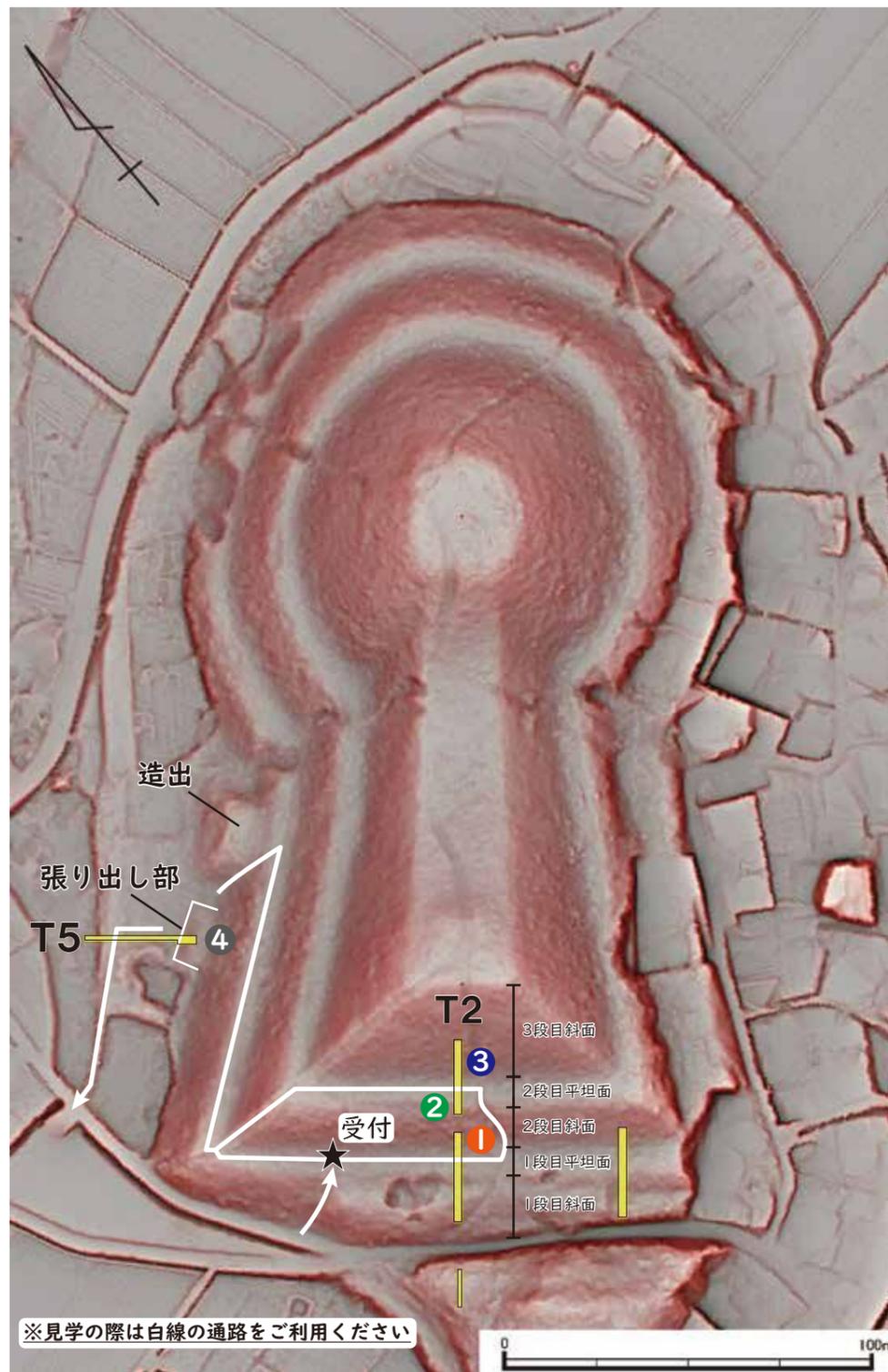


葺石は、古墳の表面を飾るために斜面に並べられた石です。この段では、丸い河原石と角ばった石の両方が用いられています。最下段の石（基底石^{きていせき}）には他よりやや大きな石が使われていることに加え、石を葺く際の基準とした縦方向のライン（縦目地^{たためじ}）を確認しました。（写真は西側から撮影）

② 2 段目平坦面の円筒埴輪列^{えんとうはにわ}



墳丘を囲むように据え置かれた円筒埴輪列の一部です。ここでは合計5本並んだ状況を確認しました。埴輪は、底部を埋めた状態で据え置かれており、その出土状況から、大型のものを先に置いてから小型のものを並べたと想定されます。大量の埴輪を効率よく並べるうえで、大型のものを先に置いて目印にした可能性があります。（写真は南西側から撮影）



第2図 令和7年度発掘調査箇所（黄塗りの範囲が対象）

③ 3 段目斜面の葺石



2 段目斜面の葺石とは異なり、この段に並べられた葺石は、角ばった石が用いられています。古墳の平坦面と斜面の境目を中心に、崩れ落ちた葺石が積み重なっている状況を確認しました。（写真は南西側から撮影）

④ 張り出し部



トレンチの斜面から大量の円筒埴輪片とともに、形象埴輪片や須恵器といった祭祀にかかわる遺物が見つかりました。また、平坦面からは据え置かれた円筒埴輪が見つかりました。

この場所は「造出状の張り出し部」と呼ばれており、その性格は謎に包まれていましたが、今回の調査で造出^{つくりだし}であることが明らかとなりました。造出が古墳の前方部の片側に複数取り付く例は、全国的に見ても極めて珍しく、岡山県内では初めての事例となります。（写真は西側から撮影）